

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

3年目を迎えた北信越高校山スキー研修会とその意味

参加者は北から新潟の新保（6日朝まで）、長野の大西英、松田、横内（7日のみ）、僕（6日のみ）、富山の八幡、石川の鴻埜、北川、根石、田端、岡山の田中の総勢11名。長野組と田中さんは6時半に松本市内某所で待ち合わせ。某氏の寝坊（！）により出発時刻が少し遅れたが、集合時刻より若干早く妙高杉の原スキー場に集合。にもかかわらず、すでに他県のメンバーは集合されており、今や遅しと我々を待っている状況であった。スキーを履いて気もはやる面々は、挨拶もそこそこにゴンドラに乗り、山頂へと向かう。リフトを一本乗り継いで、ゲレンデトップ（1850m）で登高の準備。今日は、ここから、妙高の外輪山三田原山の2300m付近まで登り、妙高のカルデラへ滑り降りた後、再び登り返し、外輪山稜線から一気にスキー場まで滑り降りるという計画だ。

良い天気を期待していたのだが、登り始めるにつれ、上部は結構な雪降り。最も昨年この会は、びしょびしょになりながら冷たい雨の中を、「白鳥山には山小屋がある」というだけの理由で登ったのである。「それを思えばまだまし」、誰言うともなくそんなことばを交わしながら、沢を渡ってとりついた尾根の、のっけから始まる急な雪面をジグザグを切りながら登っていく。

10:45、稜線直下の風を除けられる2230m付近で一本取る。改めてここで久闊を叙す。今回は福井県を除く北信越4県の仲間と岡山県の田中さん。その田中さんはもとより、初お目見えの石川県田端さんも、すんなり仲間入り。これまで北信越大会、北信越高体連協議会、インターハイなどで旧知の仲ではある。しかし、こういったメンバーが純粋に生徒から離れて、また高体連という公式な立場からもフリーになって、純粋に趣味の世界で交流を持つことの意味は大きい。手前味噌で恐縮だが、長野には高校教員を主体にした社会人山岳会の「信高山岳会（信濃高等学校教職員山岳会）」があり、活動をしている。しかし、全国的にはこれは極めて稀なケースである。「高体連」という公式な立場から離れた私的なつながりの中で、技術を磨いたり交流を深めたりできるこの「研修会」は、山岳会とまではいえないゆるやかなつながりの会だが、精神的には長野における信高山岳会をもう少し広域化したものと考えてもいいだろうというのが私の考えである。これが有形無形必ずや我々の血となり肉となる。そしてそれは「山や」としての、また「顧問」としての力となって、様々な形で還元されるはず。



妙高火口の9人（撮影：大西浩）

11:10 標高2300m外輪山に出る。しばらく稜線を進み、2320mの小ピークから火口へと滑り降りる。出だしは結構な急斜面であるがパウダーで気持ちのいい滑りを満喫。思い思いのシュプールを刻みながら、標高差で200mを滑り降りた。12:05 降りしきる雪の中で行動食を摂りながら、みんな笑顔で滑りを批評し合う。このあとの登り返しは予想以上のアルバイト



を強いられたが、13:25再び外輪山に到着。その後は、登りで使った尾根の西の沢を挟んだ広い尾根を下る。下部に行くにつれ雪は重くなり、やや樹林が濃くなって滑りにくくはなったが、これこそ山スキーの醍醐味。15:00林道に出る。そのままゲレンデへ出て、無事全員に帰着。

このあとがこの会のもう一つの主眼である大交流会。しかし、僕は極めて遺憾ながら、すでに以前から、5日夜は長山協の会議、翌6日は生徒と山へ登る計画を立ててあつたので、後ろ髪を引かれる思いで辞したのであった。

文中にも書いたが、我々は顧問であると同時に「山や」でなくてはならない。むろん生徒と山へ一緒に行く中で磨かれる技術もある。しかし、それ以外に「自分の山登り」を楽しむ中で培われる様々な知恵が「山や」としての幅であろう。山岳センターなどの研修会などに参加するのもその一つだが、僕はこうした自主的・自発的な研修会を大事にしたい。中信地区では、2003年より経年的に「登山研修交流会」を行ってきているが、それもその一つである。純粋に山仲間として他校の先生方と交流を深めながら、山に登ること。やっていることは単純だが、その企画を具体化して下さった大西英樹さん、根石修さんには改めて感謝したい。聞くところによると、夜はPCを持ち込んでGPSによるナビゲーションや、動画による滑りの検討など単なる飲み会を越えた「山談議」に花が咲いたという。私としては、5日は極めてタイトな日程の中での参加であったが、参加して本当によかった。願わくはこの会が次年度以降も続かんことを。

北信越高校山スキー研修会 北川甚一先生(石川)の報告

会員のみなさん、お世話になりました。昨年に続き、2度目の研修会参加になります。

三田原山・黒姫山と、2日間にわたり本当に楽しい山スキーをさせてもらいました。山スキーの楽しさにも増して、皆さんの元気に圧倒されます。毎年、年齢が一つずつ増えているはずなのに、メンバーの方々にお会いするたび、山スキーに対する情熱がより高くなり、若くなっているのではないかと思ってしまう。そして、会員の方々の向上心に驚くばかりです。

皆さんに取り残されないように頑張らねばと、刺激を受けた研修会でした。大自然を堪能し、それにも増して素晴らしい山仲間と一緒に山スキーができる幸せを感じます。研修会が益々盛んになることを願うばかりです。山に登るたびに、これまで知らなかった世界が開け、感動するばかりです。山仲間感謝です。

18日に英樹さんと金山沢を滑ってきました。灌木少ない大斜面の滑降は、なんと素晴らしいの一言です。目標物がないと、感覚が捉えられず、スピードコントロールしきれずに怖かったです。往復ともに歩きがあり、少々大変かと。英樹さんの馬力について行くのは疲れますねえ。

翌日は、一人で白馬コルチナにて滑りました。隣の白馬乗鞍スキー場までミニバックカントリーコースがあったり、ゲレンデ内の林の中を滑走できたりと、なかなか多彩なコースがありビックリです。雪質は、今ひとつでしたが楽しかったですよ。先日の一里野のような日(注:筆者未体験)に、コルチナへ行けば最高の山スキーゲレンデになるかと思えます。では、また次回一緒に出かけましょう。